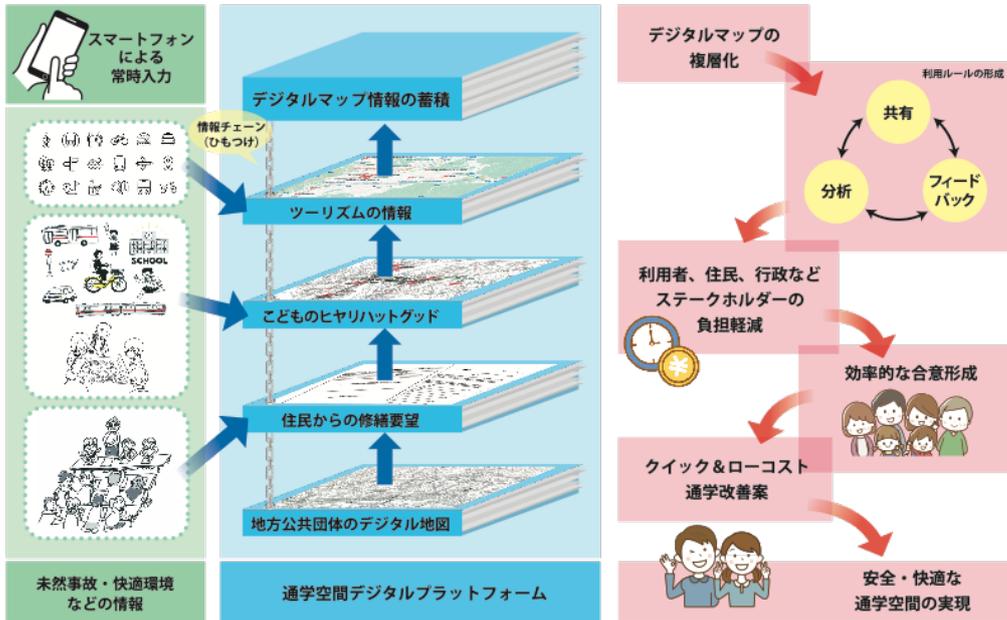


# 安全な通学空間管理のDXに関する資料

出典：社会実験「安全な通学空間管理のDX実験」実験報告書 令和5年度分より抜粋



## 通学空間のデジタルプラットフォーム形成と安全・快適性の実現(概念図)

図1 通学空間のデジタルプラットフォームの概念図

### 実験名称 安全な通学空間管理のDX

#### 地域の課題

- これまでの通学路の一点検は徒歩通学の小学校区を対象としており、**中学校における自転車通学路は対象となっていない。**
- 自転車通学路は、**対象が広範囲に及ぶため危険箇所の把握から対策の実施までのPDCAサイクルを回しづらい。**
- 交通安全対策要望箇所、通学路点検結果などは**紙ベースで個別に管理**されているほか、中学生からの意見を聞いていないため、**市全体の状況を把握が難しく、交通安全対策箇所の優先順位等が明確でなかった。**

#### 解決策

- ① 毎日の通学による道路の最大利用者である中学生が抱えている**道路危険箇所の意見を迅速に道路改良等に反映**させることが重要である。そのため、中学生自身による**通学路のヒヤリハットをデジタル地図上で集約し実態を把握**する。
- ② 市や関係機関が保有する通学路に関する情報などを重ね合わせ、利用者目線、地区目線、行政目線を融合し、**デジタル地図上で「見える化」**する。これにより、通学空間をより安全でかつ円滑に利用するためのPDCAサイクルを回す仕組みが構築される。

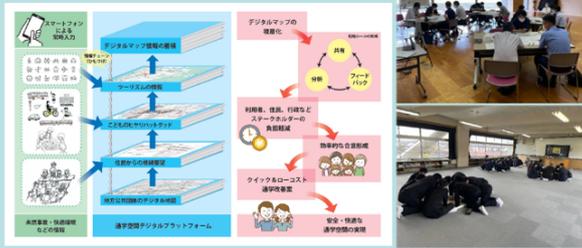
#### 実験内容

実証実験では、人を重視した道路空間構築を目指し、①利用者視点、②地区視点、③行政視点から**通学路評価による危険箇所をデジタル地図上でデータベースとして構築**⇒危険箇所の抽出とソフト及びハード事業の実施にいたるプロセスの迅速化を実現

#### 複数年度にわたっての実験が必要な理由

行政目線、利用者目線、地区目線といった横断的な取組みとなるため、1年目は利用者目線を重点に置き、中学生を対象としたデータベースを構築、2年目は地区目線に重点を置き、1年目に構築した利用者目線でのデータ検証に加え、地区目線、行政目線からのデータも融合させる道路空間構築システムを構築する計画。効果的な実証実験の実施、検証を行うためには複数年度必要。

#### 実験のイメージ



#### 関係機関

伊那市、大成ロテック、飯田国道事務所、長野県伊那建設事務所、伊那市教育委員会、PTA、伊那市立春富中学校・東部中学校、伊那警察署、自転車利用環境向上会議

図2 「安全な通学空間管理のDX」概要

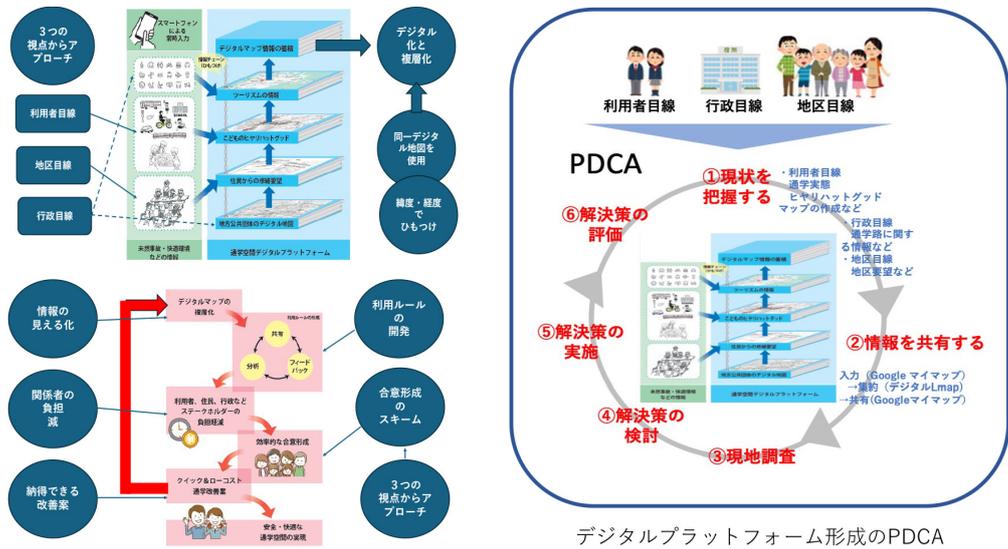


図3 デジタルプラットフォームとPDCA



図4 実験の状況

2023年4月実施 春富中学校ヒヤリハットグッドマップ

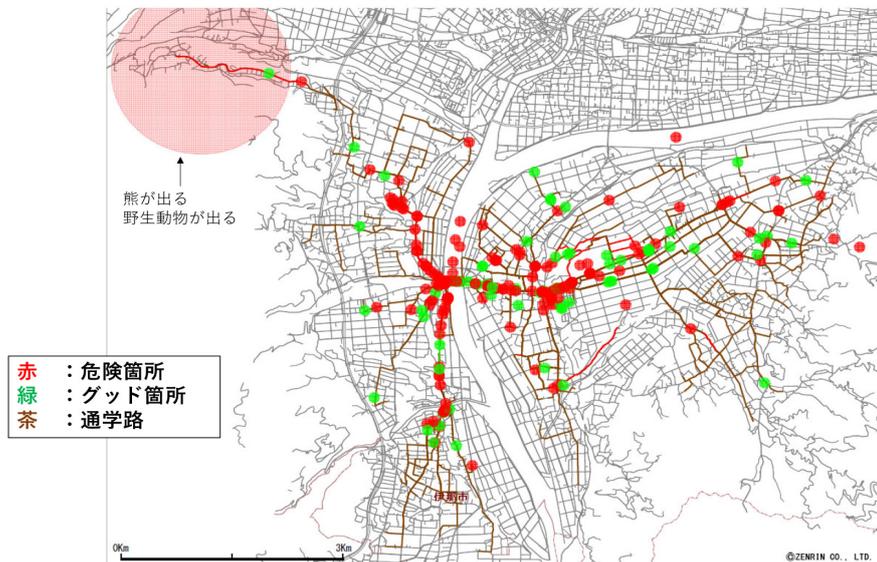


図5 利用者目線の例 (ヒヤリハットグッドマップ/春富中学校)

①現状把握 ②情報共有 デジタル活用による効率化と参画

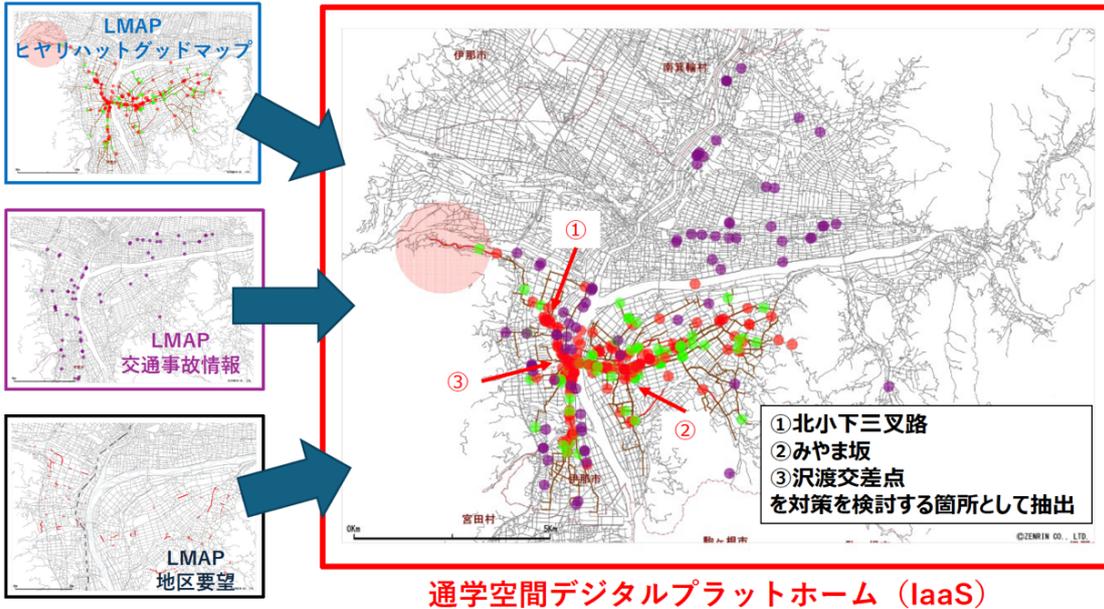


図6 複層化されたデジタルマップの活用例 (IaaS / アイアース)

解決策の検討、⑥解決策の実施：通学空間デジタルプラットフォームの活用

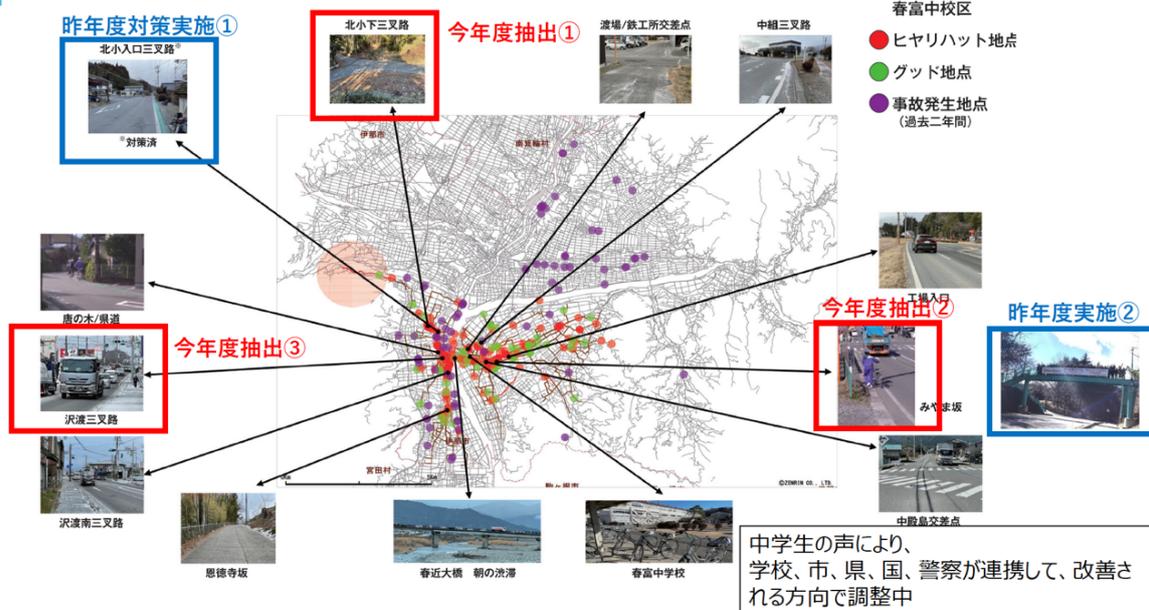


図7 通学空間デジタルプラットフォームを活用した解決策の検討例